

・事業プランの実現に向けて

これまで、様々な事業案を検討してきたが、すべての事業は、行政、事業者、区民とがそれぞれ役割分担を持ちつつも、一体となって実現させる必要がある。これまでに検討してきた諸事業案について、実現に向けた方策として、事業内容を踏まえ、取り組むべき方向性、事業期間等を設定するとともに、事業の実施主体のあり方について一定の考え方をまとめた。

1 早期に着手する事業

〔1〕推進組織の立ち上げ

来訪者を誘致するための方策は多様にあり、状況の変化に応じて柔軟に実施していくものである。観光振興の推進においては柔軟な民間の事業展開が必要であり、行政の硬直的な予算執行では困難である。このような観点から、実行力を伴った、事業の推進組織を立ち上げることが、様々な事業案を実現させるための第一歩と言える。

〔2〕アニメを活用したにぎわいづくり

練馬区には東映アニメーションや虫プロといった大手ばかりでなく、多くのアニメプロダクションが存在している。また、多くの、著名なコミック作家も区内に居住している。この素材を来訪者誘致に効果的に活用することが求められている。活用の方法は様々であるが、イベントでの活用、「まち」の個性創出への活用を図るとともに、アニメが練馬区に根づき市民権を得る事業として、「アニメフェア」を開催するなど、練馬区と「アニメ」のつながりを内外に示すことが必要である。「アニメフェア」は、練馬アニメーション協議会と連携して、推進組織の協力を得て企画立案し、区や産業経済団体、観光関連事業者、商店街が支援することが考えられる。

*事業例：「アニメフェア」の開催（中・長期）

*事業例：「アニメフェスティバル in 大泉」の拡大強化（短期）

*事業例：「アニメ展示コーナー」の開設（中・長期）

*事業例：「アニメキャラ・コスプレ大会」の開催（短期）

〔 3 〕「個性的な街」づくり

練馬区が目指す「まち歩き観光」にとっての観光資源は「まち」の魅力そのものであり、個性的な「まち」が人を惹きつける。練馬区の個性的な「まち」を外に向けて発信する（エリアガイドマップづくり、広報活動、ホームページへの掲載など）とともに、個性が発揮しきれていない「まち」については、新たな視点を加えて個性を創り上げていく必要がある。「アニメ」、「農」、「豊かな自然」などの素材を活用して、個性を創り上げていく作業を、その「まち」の地域住民との連携の下に進めていく必要がある。この事業は、推進組織と地域の商店会や住民グループが主体となって推進し、区や産業経済団体が支援する。

*事業例：「歩きたい通り」づくり（中・長期）

*事業例：「ユニークな商店街」づくり（中・長期）

*事業例：民間による地区別振興事業の推進（中・長期）

*事業例：「まちかど産業館」づくり（中・長期）

〔 4 〕「農」（農地、農産物）を活用する

農地は、都市住民に安らぎと喜びを与える貴重な観光資源である。活用例としては、「ねりまの新鮮野菜」の認知をさらに広げるための「旬野菜の直売会」、練馬大根のブランド力を活かした「大根サミット」の開催、都心近くに農地があるという立地の優位性をいかした「掘り採り観光」の推進などが考えられる。推進組織が主体となって、東京あおば農業協同組合の協力を得て、実施することが考えられる。

*事業例：「ファーマーズマーケット in ねりま」の開催（短期）

*事業例：「大根」をテーマとしたイベントの開催（短期）

*事業例：「掘り採り観光」の推進（中・長期）

〔 5 〕エリアガイドマップの作成

エリアガイドマップは、観光には必要なものであり、現在ある観光資源を活用し、来訪者への案内書として早期に作成することが望ましい。区内の様々な花の開花情報を集めた「練馬区花マップ」など、区内全域を対象とした、集客力のある情報等のマップ作成も考えられる。

また、商店街への回遊性をもたらし、商店街の活性化を図るものとして、各店舗の特色を記載した「商店街マップ」を作成し、エリアガイドマップと連動させることも考えられる。

*事業例：エリアガイドマップの作成（短期）

〔 6 〕 キャンペーンイベントの実施

観光資源調査、「練馬区にちなんだ商品（ねりコレ）」の募集・決定、「るるぶ練馬区」の発刊と続いてきたが、これまでの情報発信はその対象を主として区民中心に行ってきた。外部へ向けてのキャンペーンイベントを打ち出すことによって「練馬区のまち歩き観光」の次のステップとなる。

イベントも1日で終わるのではなく、「シリーズ化で実施」、「練馬区内を広く移動」、「練馬区のことを良く知っていることが優位」などの条件を付けたイベントの実施が考えられる。

2 準備期間を経て取り組む事業

〔 1 〕 「豊かな自然」づくり

「自然豊かな練馬区」を象徴的に表現するものとして、「ホテルが飛び交い、メダカが泳ぐ川辺」づくりを推進する。また、植樹などによる緑化地域の拡大、自然や緑を紹介するガイドマップづくりによる区民の意識づくりなども平行して行う。これらの事業は、観光資源の創出に向けた事業として行政が中心となり、取り組むことが必要である。マップづくりには、自然環境に関心の高い区内の住民グループなどとの連携により取り組むことも考えられる。

* 事業例：「自然のある空間」さがし（短期）

* 事業例：区民の活動による「快適な空間」づくり（中・長期）

* 事業例：「ホテルが飛び交う水辺」づくり（中・長期）

* 事業例：川岸遊歩道の整備（中・長期）

〔 2 〕 駅前観光案内板の設置

来訪者への道案内として、主要駅に駅前観光案内板を設置する。街区地図ではなく、目印になる建物や商店街の名称（掲出されている商店街の呼称）、路地の愛称、バス路線や乗り場案内なども掲載する。

人目につきやすい箇所に設置することによって、来訪者は、区に対して、「歩きやすいまち」とのイメージを持つ。また、好感を得るためには、親しめるデザインや変質しにくい素材を使用することも考慮する。推進組織と行政とが連携して取り組むことが求められる。

* 事業例：駅前観光案内板の設置（中・長期）

〔 3 〕 区民の意識づくり

「まち歩き観光」の欠かせないもののひとつが「来訪者と住民との交流」である。ワークショップやシンポジウムの開催などにより、受入れ態勢づくりに向けた区民の意識づくりを行なう。また、商店会と連携した地域案内の仕組みづくりを図る。

〔 4 〕 来訪者への情報提供の仕組みづくり

来訪者が「まち歩き観光」を楽しむときに、気軽に道などを尋ねることができるように、商店街の店舗でも地域の案内ができるような仕組みづくりを進める。

〔 5 〕 「まち歩き観光」商品の水準向上

商品例で挙げた「まち歩き観光」商品の水準向上に向けて、魅力を高める効果が期待できる事業を進める。

- * 事業例：ねりまタウンサイクルの仕組みの検討（中・長期）
- * 事業例：サイクリングコースの整備（中・長期）
- * 事業例：サイクリングコース向けガイドマップの作成（中・長期）
- * 事業例：ボランティアガイドの掌握と育成、組織化（中・長期）
- * 事業例：庚申塚マップづくり、コース運営の方策検討（中・長期）